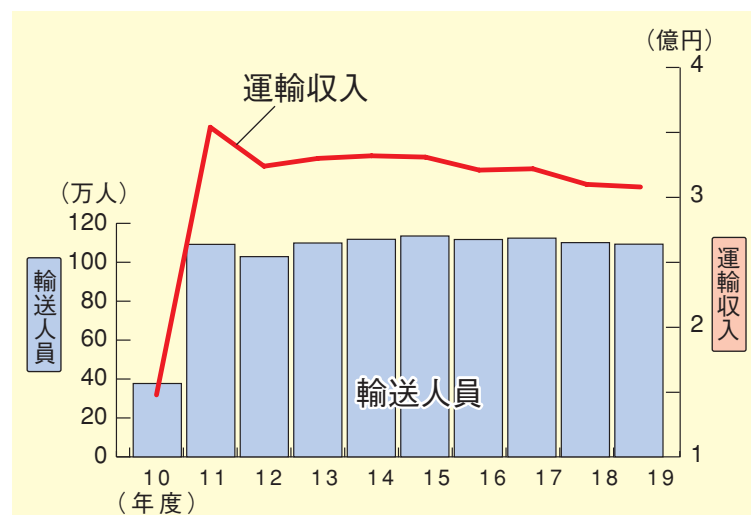




朝の総社駅の井原線のホームの様子。高校生の乗客が多く、通学の足として利用されている



■運輸収入と輸送人員

折れ線グラフで示するのが運輸収入で、平成12年度以降、3億円から3億5000万円の間で推移している。一方、棒グラフで示す輸送人員も運輸収入同様に、110万人前後で横ばい。平成10年度の数値が低いのは、平成11年1月11日の開業日から同年の3月31日までの80日間の数値であるため



■井原線 明治ごんぼうバーガー

井原市芳井地区にある明治ごんぼう村の特産品のゴボウを使用して、井原鉄道が開発したご当地バーガーの一つ。昨年10月、井原鉄道車両基地で開かれた基地喜知祭りで、200個限定販売でデビューし、人気を得た。1月11日に正式デビュー。井原駅での開業記念祭をはじめ、総社、清音、矢掛、神辺の各駅で、1個250円で販売予定

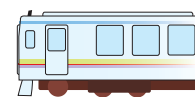
問い合わせ 人権・まちづくり推進課まちづくり支援係 ☎92-8242

地域の足、井原線をよろしく

に来て、そこで商品を購入した人には、井原線（総社〜神辺間）の復路が無料になる特典がある。「朝市のある日は利用が多い」と井原鉄道では話す。乗放り放題フリー切符やイベント列車の運行など、これまでも井原線に目を向けてもらう努力をしてきた。右ページの新しいマスコットキャラクター「はっちゃん」もその一つ。

三浦専務は、利用客を増やすには、「広告も含め、何やかにやの積み重ねが大切」と。市も財政支援 沿線自治体も財政支援を行っており、平成20年度、総社市は約700万円の支援をしている。井原鉄道も、この節目を機に再度、より一層の経費の削減や収入増につながる

よう、さまざまな角度から見直すとしている。地域の足として定着してきた井原線。沿線には名所や旧跡、楽しい催しもある。また、市の観光プロジェクトの委員でデザイナーの水戸岡鋭治さんがデザインした夕焼け色の「夢やすらぎ号」も走る。皆さん、プチ旅行で、井原線をどうぞ。



神 湯 御 高 い 井 荏 小 矢 三 備 吉 川 清 総
辺 野 領 屋 え 原 原 田 掛 谷 中 備 川 音 社
辺 野 領 屋 え 原 原 田 掛 谷 中 備 川 音 社

平成11年1月11日、午前11時11分11秒、総社〜神辺（福山市）間を結ぶ井原線の一番列車が井原駅を出発。延べ1100万人を超える人を運び、1月11日（日）に開業10周年を迎える。井原駅では開業記念祭が、1月11日の午前9時からほぼ1日開かれ、一日駅長の委嘱や記念列車の出発式、10周年のあゆみ展、福の種の配布、記念グッズの販売など、10周年を盛大に祝うことになっている。総社駅でも当日、特産品の販売ブースを設ける。1月11日はワンコインデーで、乗り降り1回が100円となる。1月1日から同31日までの間で乗車当日の1日限り、乗り降りが自由な記念フリー切符も発売される。年間110万人が利用 井原線には15の駅があり、一日23往復運行。地域に密着した生活路線として、年間110万人を超える人が利用している。輸送人員と運輸収入は、左ページのグラフのとおり、ほぼ横

ばい状態である。沿線には高校も数校あり、運輸収入の約半分が、通勤・通学定期券によるもの。通学で利用する総社南高校の竹内菜津美さん（矢掛町）は、「子どもの絵とかが飾ってあり、リラックスできる車両」と、愛着をもつ。もう一方の通勤定期の収入は着実に伸びており、開業当初の約1.5倍になっている。沿線外に利用をPR 「他の地域から沿線に足を

運ぶために利用してもらおう広報に力を入れた」と、井原鉄道の三浦一男専務。沿線人口を考えると、輸送人員を伸ばすためには、沿線の魅力を発掘し、沿線外へPRしていくことが課題であると言う。井原線DE得得市（朝市）は、沿線外からの利用客を呼ぼうと、井原駅前（第1日曜日）、吉備真備駅前（第2日曜日）、矢掛駅前（第3日曜日）の3か所で昨年10月に始まった。井原線を利用して得得市



開業10周年を迎える井原線。皆さんも沿線に足を運んでみませんか

